

ひろば 大代

平成五三.三

大代公民館

私達は大代中学校を卒業する

卒業に当って一言!!



三月は全国卒業シーズンです。数々の学び技を身につけて巣立って行く大代中学校卒業生。

男子五名、女子二名。僅か七名の卒業生ではありましたが、学業はもとよりすばらしいクラブ活動、スポーツ活動を通して、市内、県下にすばらしい才能や足跡を残してくれました。またふり返ってみますと敬老会や文化祭、都市とふる里交流会など地域のためにも大きく貢献してくれました。

地域に根差して育った、卒業生の生徒さん達を送る激励会を三月十一日(木)午前十時より公民館主催で開催したいと思います。

入試を控えて何かと行事の多い去る日、卒業生の皆さんの明るい抱負を寄せて頂きました。

- (1) 氏名 (自治会)
 (2) 将来の進路と希望
 (3) 趣味や特技
 (4) 将来こんな大代町を作りたい

★(1) 角 智宏 (川上)

(2) 高校もしくは、大学を卒業して公務員になること。

(3) 趣味は、サッカー、野球、バスケットボールなどの球技

(4) 僕は代大町にスキー場や公園、広場を作りたいと思います。なぜなら代大町にはみんなが遊ぶ所や、休んだりできる所がないからです。

★(1) 坂本将史 (山田)

(2) 高校卒業後、どこかの大学に入学し、公務員試験を受け、公務員になりたい。

(3) 趣味や特技までにはならないけど機械やコンピューターをいじったりすること。

(4) どんな大代町を作りたいかについては夢をいうと限りがないけど、今の代大よりもっと良い代大にしたいです。だから今のうちにもっ

とたくさん勉強して少しでも大代町の役に立ちたいです。

★(1) 武田隆広 (山田)

(2) 大田高校へ行き、卒業したら公務員の試験を受け、公務員になること
 (3) 球技(中でも一番好きなのはバスケットボール)

(4) 大人になったら大代町に人が来るように商業地や工業地のように働く所を作りたいです。その次に遊園地や動物園か高山を改造してアスレチックにしたいです。これらが実現したら、大代町は人口が増えてにぎやかで楽しい町になると思います。

★(1) 竹間良太 (八反田)

(2) 大田高等学校入学。その後大学進学。将来は公務員試験に合格して、市役所や県庁などで就職する。

(3) 趣味はサッカーをすること。

(4) 大人になったら、人口がたくさん集まってくるような町を作りたいです。でも無駄な森林破壊はしたくないです。そういうことはなるべく避けて工場や遊ぶ所などをたくさん作れば良いと思います。それから道路を広くしたり、鉄道を引いて交通の

便を良くしたらいいと思います。

★(1) 田辺信二 (一橋)

(2) 江津工業高校に行き、その後免許を取り整備士になる。

(3) いろいろな物を作ること。

(4) 大代にある高山の自然を生かし、観光地を作れたらいいなと思っています。それと大きい道路を作ったらいいと思います。

★(1) 森田才恵 (四日市)

(2) 大田高校卒業後、看護学校に通う。そして看護婦の免許を取りたい。できれば高看の免許を取りたい。

(3) 音楽観賞やサッカーの試合を見るのが好き

(4) 大人になったら働く場所がたくさんあったり、公園とかがあるような大代町を作りたいです。もっと発展した町になるといいと思います。

★(1) 横田真巳 (上市)

(2) 高校を出て就職したい。将来はまだ決めていませんが、自分の思った事を実行できる人間になりたい。

(3) 私の趣味は音楽観賞と洋画を見ることです。

(4) 大人になったら沢山、働く場所を

作って、それで過疎化をふせぎ、後このまゝ大代に緑を残して自然の多い大代町にしたい。

卒業おめでとう

大代中学校長 川上 誠



九年間の義務教育を終えて大代中を巣立つ皆さん おめでとう。特に中学校での三年間は、心身共に大きく成長しました。小規模校のため一人何役もの活動をし、素晴らしい成果を上げました。こうした成果は、もちろん皆さんの努力があったからです。それにも増して、家族、地域、先生方をはじめ沢山の方々の温かい励ましとご指導をいただいて、成長したことを忘れてはなりません。

中学校で身につけたものを生涯の財産として、これから更に心と体を強くし、思いやりの心を持って励み、郷土社会のため、そして世界のためになくしてはならない人物になって下さい。

我が子の卒業を祝福して

山田 武田廣司

月日の経つのは早いもので、自分自身、たったこの前大きくなったら、ああしたい、こうしたいと将来の夢を見たり。親に好き勝手な事を言って困らせたり。

とにかくなんだかんだ言っても、若かったので人間は年を取るものだからか考えてもいなかったが、いつの間にか鏡を見るとおじさんの顔になっていた。それもそのはず、まだ可愛い／＼と子供扱いしていた子供達がいつの間にか背丈は親より大きくなり、三月で義務教育も終わり、高校生として親元を離れて生活する事になる。嬉しいような寂しいような気がする。

私は五年位前まで広島に住んでいたがいろいろ迷った末、思いきって大代に帰って来た。やっぱり子供達に古里の山や川、家に帰るとおじいちゃん、おばあちゃんがいて両親がいる。ごく自然の中で子供の頃の思い出を作ったりたくて帰ることにした。

短い期間ではあったけど、春夏秋冬と景色が移り変わる大江高山を見ながら、夏は田植ばやし、秋は神楽など都会にはない体験をさせてやる事が出来

た。

学校を卒業すると、表面的な幸せを求めて都会へと若者が出て行くが、地味でも安定感のある田舎、古里を愛して古里の発展に、貢献できる人間になつて貰いたいと思う。



親子読書会で学んだこと

上市 畠山千鶴

先生の読み聞かせが始まると、一才と四才の子どもは目を輝かせ、大人とは違う世界に入り込んで行った。子ども達には、私の忘れてしまったおとぎの国が見えているようだった。

幼稚園に行く様になり、毎日から「早く服を着て」「早く食べて」「早く用意をして」……と長男をせきたてる。「本を読んで」と持ってきても、忙しい時は「後でね」とか「自分で見ていなさい」とそっけない。

まだ子どもが一人だった頃、もっと幼かった頃は、もう少し子どもに優しく接していた気がする。こんな毎日だから今回の講演は胸に響くものがあった。

た。

「寝る前の本の読み聞かせは、子どもにとって、心の夕ごはんである。心の夕ごはんをもらった子の寝顔は笑っているようだ。」

子ども達はどうかだろう。満足しているかな。この頃、目がやさしくない様な気がする。私も子ども達に思いやりがない、余裕がないなあと思う。心の夕ごはんが少しおそまつになっていたんだらう。

毎晩、ごちそうはあげられないけれど、できるだけ時間を見つけ、読み聞かせをしていきたいと思う。

そして今日の先生の読み聞かせの時の様な、明るい目をした子どもに育ってほしいなあと思った。

農業講座を受講して

上飯谷 田辺虎治郎



大代公民館活動で、農業講座が先日二月十七日開催され、私も受講させて頂きました。農業講座で学んだ事を館報「ひろば」に載せる原稿を依頼されました。

しかし、私は文章を書く事は不慣れですが断る事も出来がたく寄稿する事にしました。

講師先生は瑞穂本部から来町されました。運悪く、大雨が降りましたが、稲作りを熱心にされている方々が雨天にもいとわず、二十数名参加され、その内、女性の方が約半数おられてその熱心さに感動し、心強く思いました。

講演の内容は水稻栽培で、生産コストを半減にして味の良い健康食品米を増取する方法でした。

大代地区ではコシヒカリで七百キロ（約十一俵半）作る事が出来る。それには次の様な栽培をすれば誰でも作る事が出来ると話されました。

その内容は今書くのは原稿用紙の制限があつて出来ませんが、私は米を作る人は作面積大小にかかわらず、誰でも少しでも多く楽に作りたいたいという気持ちを持って居られると思ひ、私等受講した者だけ知っていたのでは、もっとたいなく受講されなかつた米作りの皆様方に、私が聞いて覚えていた事を、又機会があれば書いても良いと思つています。

社会を明るくする運動

第十二回大田市同和教育

研究大会に参加して

大代公民館長 田辺 孝

『人権尊重と差別をなくそう』の市民の集いが先日開かれました。

平成五年二月二十三日、午前九時より午後四時まで、大田市民センターで二百八十名の参加者によって、同和教育研究の成果と反省、そして様々な課題が提起されました。

現在、学校、社会の連携による同和教育は推進されております。

私は同和研修会に参加して、いつも考えさせられる事は、同和問題の研修会は同和問題を解消するのみでなく、市民の一人一人が幸せに生きていくための生き方を学ぶものであって、民主主義社会をつくり育てる大きな力となる事を自覚させられるのです。

同和教育は普段の教育であって、特別に着飾ったり、誇張するのではなく、人間の尊厳性を自覚し、互いに尊敬し合う人間平等な価値を追求していく教育であり、教育の続く限り継続すべき課題だと思ひます。

大代町の明るい町づくりは学校、社会の連携による同和教育の推進によって、私たちは幸せに生きていけると信じ合つて暮らしたいものです。

だれもが同和教育の研修会、講演会に積極的に出席することによって、自分の心の変容を見ることができるようです。明るい社会を作りたい。そう思うのは私一人ではないと思ひます。

ふと「一人ひとりに未来がある。幸せがある」そう思ひながら、相手を思うやさしい心で差別をなくすのだと自分について聞かせながら帰路につきました。

自治会紹介

協同の精神をモットーに

椿 繩手雄



椿という地名の由来も私には、はっきりわかりませんが平穩な自治会だと私は思ひつています。

以前は二十四戸もあつた戸数も現在では一四戸となりました。幼児二人、中学生二人、大人二十七人の内、六十才以上二十人という高齢者自治会で、

九年前に團場の整備も終わり、ハウスもちらほら見える地区です。

昔から道路舗装や、又稲はでの倒れた時等共同でやっています。

一昨年は水田六反を借り、地区総出でこれにあたり、僅かな収入ではあります。得たもので十年前に建てた集会所を増築する事が出来、これこそ全員それなりの力に依つて完成したものです。

暮れもおし迫つた頃、全員が忘年会と称して一年の労をねぎらい、語り合う一時が一番楽しい椿自治会です。

この先何とか人口の増えることを望んでいるのですが、世の中にか異変も起こらぬ限り、その望みは叶わぬ事と思ひます。とにかく私達地区民が共同の力を以つてやるしかない今の現状です。 昨年は最悪の年に見舞われましたが本年は「災い転じて福となす」の諺通り、手を取り合つて頑張りたいと思ひます。

唱歌の旅

(三月)



「どこかで春が――」
一、どこかで春が生まれてる

どこかで水が流れ出す

どこかでひばりが鳴いている

どこかで芽の出る音がする

山の三月 そよ風吹いて

どこかで春が生まれてる

春の雨

下市 田辺 孝



花が咲くころになった。

いい気候である。窓をあけてわが家

の花を見ると、生きてよかったな、と

つい思うのである。病人でもないし、

春がうれしいと感じるのは、やはり生

きているからである。

生きているから花も見られる。

これから物見遊山でも出かけられる

春の頃になると、このように思うのは

年の精でもない筈である。

春ふる雨はなぜぬくい

遠い極楽 花の国

お花の風にさそわれて

ふってくるから花が咲く

いろいろたである。雨がふるから花が

咲く。極楽からもってくる雨である。

花を咲かせる雨である。

ほんのりと匂う春の雨

雪はふります しゅぶしゅぶと

雨のこやみにきてみれば

土手のよもぎの芽は青い

生きていてよかった。春がきたので

ある。うんと春の気を心に吸っておこ

う。

都市とふる里を結ぶコーナー

素直な心で

関西高山会事務局長 中本 弘

我が家から万歩計で約一万歩のここ

ろに歴史的に由緒ある延命寺という寺

がある。寺もさることながら、境内の

もみじは府下みどり百選の中に入る程

大変見事なものである。

秋ともなればそのもみじを觀賞する

見物客で境内はいっぱいになる。

境内の中の掲示板に次の「つもりち

がい十カ条」が掲載されていたので紹

介したい。

一、高いつもりで低い教養

二、低いつもりで高い気位

三、深いつもりで浅いのが知識

四、浅いつもりで深いのが欲の皮

五、厚いつもりでうすいのは人情

六、うすいつもりで厚いのが面の皮

七、強いつもりで弱いのは根性

八、弱いつもりで強いのが我

九、多いつもりで少ないのは分別

十、少ないつもりで多いのが無駄

結局わかつているつもりで一番わか

っていないのが自分の心。

お互いの素直な心を持つ一刻を持ち

たいものである。

*** 3月の行事予定 ***

*** ** ** ** **

*** ** ** ** **

◆7日(日) 婦人会総会

◆8日(月) J A 健康診断結果報告

◆11日(木) 中卒業生激励会

◆14日(日) 福祉弁当

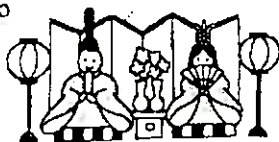
◆16日(火) 中学校卒業式

◆19日(金) 幼稚園卒業式

◆19日(金) 小学校卒業式

◆28日(日) 市長選挙日

――おしらせ――



◎ 社協大代支部より

八反田 長谷保孝様

香典返しに替えて金一封の御厚志を

頂きました。厚く御礼申し上げます。